

60分でわかる旧約聖書(38) 「ゼカリヤ書」

1. はじめに

(1) ゼカリヤ書の位置づけ

①大預言書 (the Major Prophets)

*イザヤ書、エレミヤ書、哀歌、エゼキエル書、ダニエル書

②小預言書 (the Minor Prophets)

*ホセア書からマラキ書までの12書。

③ゼカリヤ書は、捕囚期後預言書(3)のひとつである。

*メシア預言が満載である(新約聖書には、本書への言及が41回ある)。

*旧約聖書の中で最もキリスト論的な書である。

(2) 預言者ゼカリヤ

Zec 1:1 **ダリヨスの第二年の第八の月に、イドの子ベレクヤの子、預言者ゼカリヤに、次のような【主】のことばがあった。**

①バビロン捕囚の間(70年)、イスラエルの地では預言者の活動はなかった。

*捕囚の地では、ダニエルとエゼキエルが活躍していた。

②捕囚からの帰還後に、3人の預言者が登場する。

*ハガイ、ゼカリヤ、マラキを捕囚期後預言者と言う。

③ゼカリヤが活動を開始したのは、ダリヨスの第二年の第八の月(前520年)。

④ハガイもまた同じ年に召命を受けたが(エズ5:1、6:14)。

*ハガイの場合は、活動期間が3カ月であった。

*ゼカリヤは、ハガイの働きを継承した。

⑤ゼカリヤの活動期間は、前470年まで続いた。約50年間の活動。

⑥ゼカリヤ書のキーワードは、「万軍の【主】」(52回も出てくる)。

⑦ゼカリヤは、「イドの子ベレクヤの子」であった。

(3) この時代のイスラエルの民の霊的状态

①彼らは、偶像礼拝からは離れていた。

*バビロン捕囚により教訓を学んだ。

②ユダヤ教の歴史の中では、会堂の建設がこの時期から始まっている。

③それでも、民の霊的状态は非常に貧しいものであった。

④そういう霊的背景の中で、ゼカリヤは民を励ますメッセージを語った。

*ダニエル書のテーマは「異邦人の時」。

*ゼカリヤ書のテーマは、「異邦人の時の間のイスラエル」。

2. アウトライン

- I. 8つの幻(1~6章)
- II. 幕あい:断食に関する質問(7~8章)
- III. 2つの預言的宣告(9~14章)
 - 1. メシアの初臨(9~11章)
 - 2. メシアの再臨(12~14章)

ゼカリヤ書のメシア預言について学ぶ。

I. 8つの幻(1~6章)

- (1) ゼカリヤは、一晩で見た8つの幻を解説する。
 - ①これは、神殿建設を躊躇している民を励ますための幻である。
- (2) 8つの幻の内容
 - ①エルサレムは解放され、清められ、再建される。
 - ②エルサレムは、平和と繁栄を享受する町となる。
 - ③6章の最後で、ゼカリヤは、金と銀で王冠を作り、それを大祭司ヨシュアの頭にかぶらせる。
 - *王であり祭司であるというのは、メシアの予表である。

II. 幕あい:断食に関する質問(7~8章)

- (1) ベテルの住民たちがエルサレムに上って来て、質問をした。
 - ①エルサレムの崩壊を記念する断食を、今後とも継続すべきか。
 - *第5の月の断食
 - ②エルサレムが再建されるなら、なぜ断食を続ける必要があるのか。
- (2) ゼカリヤの回答
 - ①断食は、カレンダーに基づいて行うものではない。
 - ②断食は、心から出て来るものでなければならない。
 - ③栄化されたエルサレムでは、断食(fast)は宴会(feast)に変えられる。

III. 2つの預言的宣告(9~14章)

- 1. メシアの初臨(9~11章)
 - (1) ゼカ9:9

Zec 9:9 シオンの娘よ。大いに喜べ。／エルサレムの娘よ。喜び叫べ。／見よ。あなたの王があなたのところに来られる。／この方は正しい方で、救いを賜り、／柔和で、ろばに乗られる。／それも、雌ろばの子の子ろばに。

- ①大いに喜べとは、恐れる必要はないということである。
 - *ギリシア人の王(アレキサンダー)ではなく、ユダヤ人の王が来られる。
- ②その王の性質が3つ挙げられる。
 - *「正しい方」。常にメシアに帰される性質である。
 - *「救いを賜る方」。ユダヤ人の王は救うために来られる。
 - *「柔和な方」。メシアは受難のしもべとして来られる。
- ③メシアは、まだ誰も乗ったことのない「子ろば」に乗って来られる。
 - *平和の君として来られることを意味している。
- ④この預言は、マタイ 21:1~11 で成就した。
- ⑤その時人々は、「ダビデの子にホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。ホサナ。いと高き所に」(マタ 21:9) と叫んだ。
- ⑥ところが、その1週間後にイエスは十字架に渡された。
 - *初臨と再臨に区別がついていなかった。

(2) ゼカ 11:12~13

Zec 11:12 私は彼らに言った。「あなたがたがよいと思うなら、私に賃金を払いなさい。もし、そうでないなら、やめなさい。」すると彼らは、私の賃金として、銀三十シケルを量った。

Zec 11:13 【主】は私に仰せられた。「彼らによってわたしが値積もりされた尊い価を、陶器師に投げ与えよ。」そこで、私は銀三十を取り、それを【主】の宮の陶器師に投げ与えた。

- ①ゼカリヤは指導者たちに、自分の働きに対する賃金を要求した。
- ②もし価値がないと判断するなら、払わなくてもよい。
- ③それに応答して、指導者たちは、銀30シケル(銀貨30枚)を払った。
 - *ユダヤ的文脈では、これは何も払わないよりも、さらに悪い。
 - *出 21:32の規定では、銀貨30枚は、殺された奴隷の値段である。
 - *指導者たちは、ゼカリヤの働きを軽蔑したのである。
- ④【主】の命令。
 - *「彼らによってわたしが値積もりされた尊い価を、器師に投げ与えよ」
 - *指導者たちが払った銀貨30枚は、【主】を値積りした価格でもあった。
 - *それは、【主】を軽蔑する象徴的な数字である。
- ⑤ゼカリヤは、それを【主】の宮の付近にあった陶器師の地区に投げ込んだ。
- ⑥以上のことは、キリストの生涯において成就した。

- *キリストは銀30枚で売られた(マタ26:14~16)。
- *銀30枚は、陶器師の畑を買うために用いられた(マタ27:3~10)。
- *イエスを買うための銀30枚は、神殿の金庫から抛出された。
- *指導者たちは、無意識的に、究極のいけにえであるイエスを買っていた。

2. メシアの再臨(12~14章)

(1) ゼカ12:10

Zec 12:10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。

- ①ハルマゲドンの戦いの最後に、神は聖霊をイスラエルの民の上に注がれる。
- ②聖霊の傾注によって、イスラエルの民は霊的变化を経験する。
- ③彼らは、「自分たちが突き刺した者」を仰ぎ見る。
- ④キリストが救い主であることを理解した民は、キリストに哀願する。
 - *自分たちのところに戻ってくださいと。
 - *これが、イスラエルの民の民族的回心の様子である。
- ⑤イスラエルの民の回心は、メシアの再臨、千年王国の成就へとつながる。

(2) ゼカ14:4

Zec 14:4 その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る。

- ①メシアの再臨の時に地形が激変することが預言されている。
- ②オリーブ山は、エルサレムの東側にあつて南北に延びる小山脈である。
- ③その小山脈が、大地震によって南北に割け、中央に、東西に延びる非常に大きな谷ができる。
- ④地殻変動が起こるのはエルサレム近辺だけでなく、全地に渡る。

(3) ゼカ14:9

Zec 14:9 【主】は地のすべての王となられる。その日には、【主】はただひとり、御名もただ一つとなる。

- ①メシアの再臨後、千年王国(メシア的王国)が設立される。
- ②千年王国では、【主】だけが神として礼拝される。
- ③千年王国においては、一切の偶像が取り除かれ、偶像礼拝が消滅する。

(4) ゼカ 14:16~17

Zec 14:16 エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の【主】である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。

Zec 14:17 地上の諸氏族のうち、万軍の【主】である王を礼拝しにエルサレムへ上って来ない氏族の上には、雨が降らない。

- ①「生き残った者」とは、大患難時代を生き延びた異邦人信者のことである。
*彼らは、マタイ 25:31~41 に出てくる「羊の異邦人」でもある。
- ②その彼らが、毎年エルサレムに上って来る。
*万軍の【主】である王を礼拝するため(イザ 2:2~4、エゼ 40~48章)。
*仮庵の祭りを祝うため(レビ 23:34~43)。
・仮庵の祭りは、メシア的王国を預言した祭りである。
- ③年に一度、エルサレムに上ることは、すべての民の義務となる。
*「代表団」を派遣するということ。
- ④もしこの命令に背くなら、その民の上には一年間雨が降らなくなる。
*つまり、収穫がないということ。

結論

- (1) 異邦人である私たちも、メシア的王国における仮庵の祭りに招かれている。
 - ①その日には、王なるイエスを顔と顔を合わせて仰ぎ見るようになる。
 - ②この喜びの日を楽しみに、今を生きようではないか。

- (2) ゼカリヤは、「イドの子ベレクヤの子」であった。

Zec 1:1 ダリヨスの第二年の第八の月に、イドの子ベレクヤの子、預言者ゼカリヤに、次のような【主】のことばがあった。

- ①イドは、「彼の時」という意味。
- ②ベレクヤは、「【主】は祝福する」という意味。
- ③ゼカリヤは、「【主】は覚えている」という意味。
- ④「【主】は覚えておられ、ご自身の時が来たなら、その民を祝福してください」というのがゼカリヤ書のメッセージである